

副会長就任のご挨拶



羽多野 宏子

今総会にて副会長に就任いたしました。会員の皆様のご支援を深く感謝申し上げます。4期8年に亘り、副会長として総務担当を任せられ、微力な

がら会の発展と運営に携わってまいりましたが今期はより責任を感じております。

全世界がコロナ禍で被災、日本も収束が難しい今年、会の運営については皆さまに大変ご心配とご迷惑をおかけしておりますことお詫びいたします。

ようやく事業開催の目途がたち準備中であることを此処にご報告させていただきます。(ホームページ、栄養大阪にてご案内予定です)

私は前期2年間、大阪府の受託事業を中心とした事業活動に関わり、「大阪府入退院支援手引き」、「介護と医療をつなぐ確認シート」の委員や大阪府介護予防関連事業で5団体・多職種連携で地域ケア会議、サービス担当者会議等の介護予防活動に会の代表として協力・参画致し、地域で活動する会員の皆様と課題を共有し活動を行いました。また医療・介護連携の現場で活用できる「高齢者在宅支援の情報提供書(大阪版)」を看護協会、食事提供事業者、ケアマネ協会とともに作成し研修会にて学習、広報化してきました。地域包括ケアシステムの構築、推進の中で、平成27年度から在宅栄養ケア事業で人材育成、実践研修、体制づくりに取り組み、すそ野は広がってきています。管理栄養士・栄養士は食と栄養の専門職として認識され多職種との活動の輪も必要です。本年2020年の診療報酬改定で、栄養指導をはじめとする栄養関連の点数改正がそのことを証明しています。

今年度は塚田副会長と「栄養ケア・ステーション」事業強化に取り組みます。日本栄養士会がすすめる「栄養ケアセンター」の役割を模索し、コロナと共存した社会の中で「新たな形」で進めてまいります。～全ては行動から、人も・社会も変わると信じて～会員の皆様の一層のご支援とご協力をお願いいたします。



中野 忠雄

このたび、2期目の副会長をやらせていただきます中野忠雄です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、日本栄養士会の今年度の定時総会は6月21日に集合ではなくWebでの開催となりましたが、今年度の宣言の中で、今、わが国は、生活習慣病など過剰栄養とやせ症・フレイルなどの低栄養という栄養不良の二重負荷に直面している。また、このたび世界を震撼させている感染症などの課題解決のために、管理栄養士・栄養士は、職業倫理に基づき、資質や能力の向上に努め、栄養課題に取り組むことが求められている。本会は、「個人では解決できない栄養課題を組織の力で解決し、社会に貢献する」と宣言している。さらに、中村丁次会長は具体的にバランスの良い食事は免疫力を上げ、適正な栄養補給はこの解決に大きく貢献することが期待できると言われました。私もバランスのとれたおいしい食事が免疫力を高め、各々の施設でこれを考え、実践(給食として提供)することが我々管理栄養士・栄養士の仕事の中で大事なことだと思います。現在、管理栄養士養成校で教員をしていますが、栄養士の基本である献立作成や衛生管理を含めた品質管理ができる学生の養成が必要だと感じています。

また、中村丁次会長は定時総会のメッセージの中で、生涯教育研修会の大切さを強調されました。我々のような専門職種は看護師や薬剤師と同じく一生を通して勉強して、新しい知識を吸収し、その知識や技術を指導に生かす職業であると述べられました。ご存知のように大阪府栄養士会も日本栄養士会の受託事業はじめ、生涯教育研修会、事例研究発表会また身近な部会別研修会などいろいろな事業を行っております。第1に公益目的事業として、「府民に栄養・食生活に関する知識や技術を啓発、提供すること、および府内の管理栄養士・栄養士などの資質向上を図ることにより、健康増進、疾病予防のための食生活の改善を行い、公衆衛生の向上に資することを目的としている」とあります。今年度前半は新型コロナウイルスの影響で研修会の中止や延期もありますが、9月からは徐々に開催される予定ですので、どんどん参加していただきますようお願いいたします。

最後に近い将来この新型コロナウイルスに打ち勝ち、管理栄養士・栄養士の地位が向上しますようにともに頑張りましょう。

副会長就任のご挨拶



西村 智子

この度3期目の副会長の大役を担わせていただく事になりました。今年は新型コロナウイルスの影響で栄養士の職能団体としての役割がなかなか果たせず、苦難の日々が

続いております。

会員の皆様からは研修会等が中止になっている状況で栄養士会としてどのような対応をするのかと、なかなか厳しいご意見も頂いております。しかし、このような時にこのような時だからこそ、会員の皆様にご理解いただきたいことがあります。

(公社)大阪府栄養士会と他の学会の団体とでは大きく違いがあります。有名な学会などは自分のスキルを上げるための研修や発表会(学会)をすることが主な活動としていることが多いですが、栄養士会とは「栄養士の栄養士による栄養士のための職能団体」なのです。栄養士の職場に関する環境や、法律なども含め、様々なことを日本栄養士会を中心にして動いております。生涯教育で行っている栄養管理プロセスも会員の皆様、管理栄養士・栄養士の皆様全員にご理解を頂き、ご利用いただけて活用していただけるように使命を持って研修会を実施しております。

生涯教育は様々な職場で働いている管理栄養士・栄養士が同じ知識、技能、情報を共有して活躍していただきたいと毎年実施しています。管理栄養士・栄養士は、人間の生まれる前から高齢者まですべてのライフステージの栄養に携わっております。そのステージごとの管理栄養士・栄養士がそれぞれの役割を担い、シームレスな栄養管理や健康の保持・増進などを行っていただけるようにしたいと思っています。

栄養という言葉は日常にあまりにも国民に溶け込んでいるため、管理栄養士・栄養士のものだけではありませんが、管理栄養士・栄養士はその中で、栄養のプロと呼ばれる職種にならなければならないと思います。どうか会員の皆様、大阪から栄養のプロを目指して、皆さんで活躍できる場所を切り開く職能団体として一緒にやっていきませんか

今年皆様からお預かりした会費は決して無駄にせず、今後必ず価値あるものでお返ししていきますので、どうか皆様ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



塚田 定信

前回に引き続き、理事をさせていただくこととなりました。

今回は、代表理事(副会長)を拝命しこれまで以上に府民の皆様には有益な情報の提供や会員の皆様に

活力ある管理栄養士・栄養士の職域拡大に努力したいと思っております。

今回は社会活動事業部の担当として、府民への情報提供、府民参加型活動の運営に努めます。会員の皆様の日々の活動がしっかりと府民にご理解していただけるよう、ホームページの改善を進め、充実したサポートにつなげていく所存です。

さて、今回の社会医療保険診療報酬改定では、病棟担当管理栄養士への一歩として回復期リハビリテーション病棟入院料1の施設基準に管理栄養士1名以上の配置が認められました。また、栄養情報提供書に対する加算や外来化学療法での栄養食事指導の見直し等もされました。管理栄養士の責務としてしっかりと対応していけるよう、これまで以上にスキルアップに向けた取り組みを進めていきたいと思っております。

また、栄養ケア・ステーションに対する評価も改善されました。クリニックや介護施設等との連携を模索するとともに、栄養ケアセンター機能の実体化を図り、認定栄養ケア・ステーションや地域活動グループとの連携拠点としての役割を担えるよう努力してまいります。

今年は、思いもよらぬ感染症対策(COVID-19対応)が私たちの生活に深い影響を及ぼしております。栄養バランスの取れた食事は、人間の免疫力を高める力があります。

ウィズコロナへの対応策として私たち管理栄養士・栄養士に何ができるのか、何をしなければならないのかをしっかりと考え、提案していきたいと思っております。

日本栄養士会では、この度種々の疾患等予防に役立つ「予防めし(YOBŌMESI)」と題した新しい食習慣に対する提案として、インスタグラムへのレシピ提言事業を始めます。

私たち管理栄養士・栄養士から国民・府民への情報発信として皆さんの思いを込めたレシピ投稿にどうぞチャレンジしてください。

今期も適切で、タイムリーな情報が会員の皆様にお届けできるよう勤めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。